

# 筑波のかえる



高次脳機能障害友の会・いばらき

2022年 ～～ 春号 ～～ 第54号



高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305-0817

茨城県つくば市研究学園4-13-8

TEL 080-5901-9979

E-mail [kojinouibaraki@yahoo.co.jp](mailto:kojinouibaraki@yahoo.co.jp)

H.P <http://nosonsohoibaraki.sunnyday.jp/>



## 《54号内容一覧》

はじめに	1
要望書提出	2
茨城県高次脳機能障害支援体制についてのご案内	3
県南・神栖の広場	4
県北の広場	5
関係機関訪問	
日立市社会福祉協議会	6
障害者就業・生活支援センター「まゆみ」	7
がんばってる人	8
高次脳機能障害支援センターより	9
お知らせ	10

表紙の写真は、つくば市の浅野こす恵さんが作った「さをり織り」という織物です。こす恵さんはこの「さをり織り」に20年前に出会いました。それ以来、作業所に通いながらずっと続けているそうです。こす恵さんが織る「さをり織り」は、とても優しい色合いの物ばかりです。織り上がった布地は、お母さんが素敵な作品に仕上げてくれます。



## はじめに

新たな年度がスタートしました！今年度もよろしくお願ひいたします。

令和4年度からの広報誌は4月・7月・10月・1月と、時候に合わせてお届けします。コロナ禍の中で、なんとなく薄れてしまった季節感を感じ取っていただけたなら…と今号は春の明るい雰囲気、新年度のスタートを切りたいと思います。



昨年10月から、私は顧問の小原昌之先生とのご縁がきっかけで、水戸市にある「茨城カウンセリングセンター」でカウンセリング講座を受けています。講座には入門コースとレクチャーコースがあり、初めてのことなので入門コースを選びました。「心がやわらかくなるために」とカウンセリングにふれあうための講座が全10回、リモートで聴くことも出来ますが、やはり直接お聞きしたい！でも、通いきれるかが不安でした。ところが、経験豊富で知識も技術にも長けたベテランのカウンセラーに毎回講義を受けていると、次第に自分の心が癒されて、今では毎月一回の講座を楽しみに通うことが出来ています。

3月、6回目の講座は「支え合う・わかちあうよろこび」というテーマで第一部と二部を30～40歳代？の若いお二人のカウンセラーが話しをされました。小原先生曰く「中堅どころ」のお二人だそうです。ご自分の経験や学びを通してカウンセリングに対する真摯な思いや気づきを話されました。そして初心者の方達にも分かりやすいよう、等身大になってカウンセリングのよろこびや基礎を話してくださいました。その時思ったことが、普段の生活の中にもカウンセリングの要素が散りばめられていることです。専門的な知識はなくても家族会の活動はまさに、カウンセリングの場になっているということ、とても身近に感じることが出来ました。

「遠く、険しく、長い道のりも共に歩む誰かがいることで安心する」今回の講義の中の一説です。一人ひとり症状の違う高次脳機能障害者を支える家族の事情は様々、親子だったり夫婦だったりと関係性も其々です。悩み事を話しても、その時は明解な解決方法を導き出せなくても、親身に聞いてくれ、共に歩み支えられていることを感じることで、自ずと答えは家族自身が導き出していくものなのかも知れません。

昨年度もコロナ感染症対策から集会や交流室は中止を余儀なくされ、なかなか集うということが出来ませんでした。コロナ感染拡大で万が一にでも何か良かったことは？と聞かれれば、一番に言えるのが“顔と顔を合わせて集うことの大切さ”を切実に思えたこと。遠くにいる家族や学校の先生や友達、職場の仲間やご近所さん。マスクを取って皆に会える、集える日が一日でも早く来ますように、毎日神様にお願いをしています。

次に、今年から始まった「茨城県高次脳機能障害支援体制整備事業」についてです。当会からも例年の要望書で訴えてきた“地域で高次脳機能障害者を支えるための繋がるネットワーク支援づくり”がいよいよ本格的に始まりました。3病院の支援拠点病院が決まり、高次脳機能障害支援センターとも繋がって、医療・福祉・行政関係機関に対し連携と理解を進めるための連絡会や事例検討会などが実施されています。当会も参加して、障がい理解と当事者を支える家族を支援することの大切さをお話ししていきたいと思っています。詳しい事は本誌に高次脳機能障害支援センターからのご報告が掲載されていますので、ぜひご覧になってください。

滝沢 静江



## 要望書提出

令和4年1月31日(月) 11時~11時50分 茨城県庁 13階、保健福祉部長室

今年度もコロナ蔓延の中での配慮の上での要望書提出でした。友の会会長と役員5名に加え会員1名で保健福祉部長、支援センター副所長と県担当者に対して、要望書を手渡すと共に要望内容をひとつひとつ説明しました。特に役員からは急性期病院退院前の医療から福祉への繋ぎの情報提供の重要性を具体例を混じえて伝え、会員の当事者家族からは当事者とその家族の孤立化の現状の具体例を示し、困難な状況を発信できない当事者や家族が多く存在している現状に対しそれに気づくための行政の仕組みが欲しいと伝えました。



保健福祉部長からは、各項目の説明毎に、「ご苦勞が理解出来ました。今後もよりいっそう協力して取り組みをしていきます。」との旨のコメントが有り、特にケアラー条例を茨城県が昨年施行したことに触れ、高次脳機能障害ケアラーはもとよりケアラー全般に対して関心を持って運用面の充実に取り組んで行くと話されていて心強く感じました。

同席した県議会議員から、「当事者とその家族により良い状況を作るために今後も県と友の会が協力していきましょう」との締め言葉で閉会しました。

後日3月初旬に回答書が届き、その取組の状況については、当会と県福祉部及び支援センターとで行われる懇談会にて進捗を確認していきます。 本田

## 高次脳機能障害地域支援体制整備事業について

令和3年度より、高次脳機能障害者と家族が安心して暮らせる地域社会の実現のため「高次脳機能障害地域支援拠点病院」を指定しました。院内の支援コーディネーターを中心に4つの事業を実施し、地域支援ネットワーク体制の構築を図っていきます。

### ① 相談・技術支援

多職種支援チームにより、高次脳機能障害が疑われる方へ必要に応じ、検査や診断等の院内調整を図り、当事者や各支援機関からの相談に対応してまいります。

なお、高次脳機能障害支援センターにおいても引き続き相談を受け付けております。

### ② 普及・啓発

地域関係機関への広報活動として、パンフレットや小冊子を配布していきます。

現在も下記のようなチラシを院内支援コーディネーターとともに配布し、地域支援拠点病院について広報活動をしています。

### ③ 人材育成

高次脳機能障害に関する知識や対応方法等についての研修会・事例検討会等を企画運営し

理解促進、資質向上を図ります。

### ④ 支援体制づくり

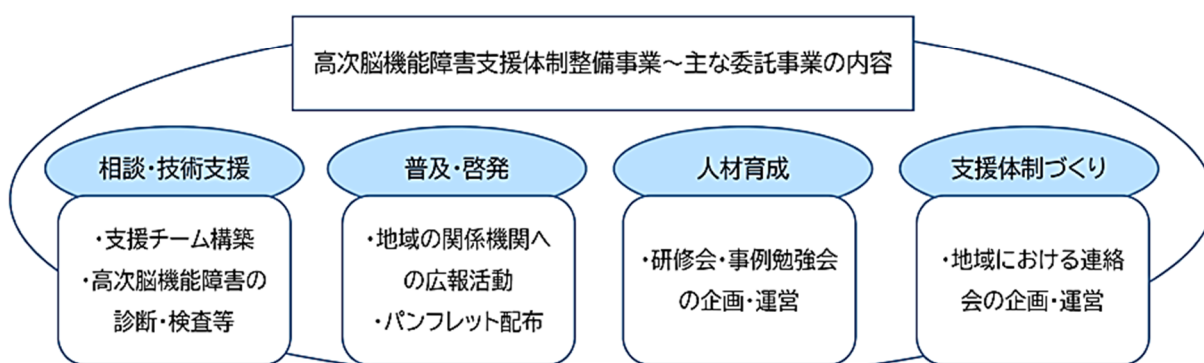
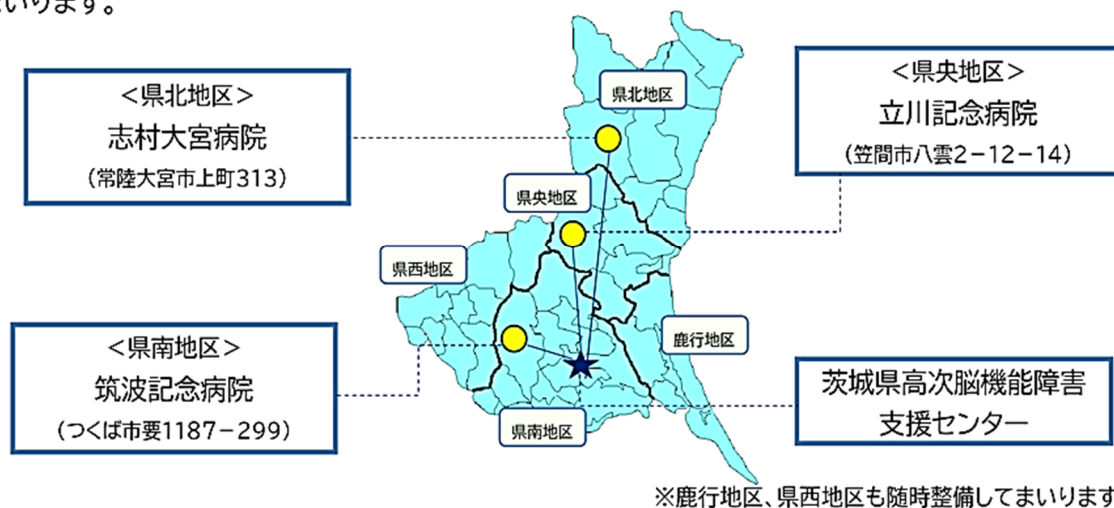
地域の関係機関との連携構築を図る目的で連絡会の企画運営をしていきます。



## 茨城県高次脳機能障害支援体制についてのご案内

茨城県では、高次脳機能障害者の支援の充実を図り、更なる地域支援ネットワーク構築を進めるために各地区に「**高次脳機能障害地域支援拠点病院**」を設置することといたしました。

各地域の支援拠点病院では、高次脳機能障害支援センターとの連携のもと、研修会や連絡会の企画、高次脳機能障害の普及啓発活動等を行い、各地域において適切な支援を受けられる体制を整備してまいります。



### ～高次脳機能障害とは～

脳出血や脳梗塞、脳炎、低酸素脳症などの疾患や、交通事故・転落事故などの脳外傷により、脳が損傷を受け、記憶力や注意力、感情のコントロールなどの「高次な」脳機能が低下する障害です。

外見では分かりにくい側面があり、本人自身も自覚しにくいことがあるため、生活や仕事等に支障が出て、周囲の理解を必要とされる障害とされています。

高次脳機能障害に関する主な相談については、支援センターにて引き続き、受け付けております。

○相談時間：月～金9:00～17:00(祝日、年末年始除く)

○相談電話：**029-887-2605**

【問い合わせ先・作成者】

〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2

茨城県保健福祉部障害福祉課

茨城県高次脳機能障害支援センター

電話：029-887-2605

FAX：029-887-2655

koujinou.sien@pref.ibaraki.lg.jp



## 県南の広場

11月に実施した守谷のレストランでの家族会が大変好評でしたので、今年度2回目の家族会を3月30日に実施しました。場所は、交流室等で利用している土浦市の「ながみね」です。まん防重点措置が解除になった直後で、参加者は8名と少なめでしたが、お茶とケーキ



で和気あいあいとした家族会が出来ました。初めて参加された方も、「最初は緊張していましたが、皆さんがとても明るいので、日ごろ溜まっていた気持ちを素直に吐き出すことが出来ました。」と話されて、笑顔で帰られました。

ほかの参加者も、日ごろの悩みや将来の心配事など素直に本音で語り合い、あっという間の2時間でした。やはり、同じような経験や思いをしてきた家族だからこそ分かり合える部分が多いので、とても密度の濃い時間だったと思います。

出来るだけ多くの家族の方が参加できるように、今年度はもう少し回数を増やして実施してみたいと考えています。ぜひご参加ください。

## 神栖の広場

### 《神栖集会の報告》

- 12月 会員3名
- 1月 会員3名 支援センター(高橋副センター長)
- 2月 会員3名 相談者1名
- 3月 会員2名 相談者1名 支援センター(宮本CN)



- ◇ 社協、神栖本所窓口が3月22日(火)より2階から1階に移動になりました。高次脳機能障害のリーフレット、冊子などを役に立てて頂けるよう、連絡を密にしていこうと思います。

今朝は「出勤途中、弟が桜の写真を撮っている姿を見かけたよ」と、娘からメールが届き、柔らかな気持ちで出勤できそうとのことでした。あちこちにパワーを発信している息子を頼もしく思います。

コロナ禍で近隣のマラソン大会の中止が続き、運動不足を気にしていますが、私が一番のネックになってしまい(体調を崩して)寂しい2月になったことを反省しています。息子と共有できる時間を多く持てるよう、固くなった身体で大きく深呼吸をして頑張ります。

## 県北の広場



令和4年度がスタートしました。

今年も「県北集会」「家族の集い」を計画しています。

- ・**県北集会** 〔当事者・家族・支援者でレクレーション等を楽しみます〕  
年6回 偶数月（4・6・8・10・12・2月）の日曜日に開催
- ・**家族の集い** 〔家族、支援者で情報交換します〕  
年6回 奇数月（5・7・9・11・1・3月）の金曜日に開催

新型コロナウイルス感染拡大が収まり、昨年より多く集会が開催できるといいですね。

集会でお会いしましょう！！

### 今年度より「県北集会のお知らせ」が変わります！

昨年度までは、県北集会の開催ごとに集会のご案内をお送りしていましたが、今年度より、『県北集会 予定表』を会報と一緒に送りいたします。

なお、家族の集いの開催日は今まで通り、会報の事業予定をご覧ください。  
（時間：10:00～12:00 場所：水戸市福祉ボランティア会館）  
なお、どちらの集会も 中止となった時は、ホームページに掲載されます。

### ■□ 集会のご報告 □■

#### 令和3年度 第4回県北集会 12月12日(日) 13:30～14:30

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 大研修室

内 容 : ポッチャ

参加者 : 12名(当事者1名、家族2名、支援者5名、学生4名)

◎クリスマスの雰囲気いっぱいの中、ポッチャを楽しみました。みんな初めてでしたが、夢中になり、楽しかった！またやりたいね！と盛り上がりました。

飾ってあったバルーンアートとクリスマスプレゼントをいただいて閉会しました。



※第5回県北集会（2月12日）、第4回家族の集い（1月21日）、第5回家族の集い（3月18日）は、コロナ感染拡大の為中止となりました。



## 関係機関訪問 ⑫

### 日立市社会福祉協議会

住所 日立市会瀬町4-9-13（福祉プラザ1階）

電話 0294-37-1122

◇日立市社協は、「福祉プラザ」という大きな4階建ての建物の1階にありました。広くて明るいフロアーにはたくさんのテーブルが並び、職員の方々がお忙しそうに活動されていました。その一番奥で、豊田達哉事務局長さんと大高茂樹事務局次長さんにお話を伺いました。



◎日立市は23の小学校区ごとにコミュニティ単会（地区社協）が設置され、それぞれが連携を持ちながら様々な福祉活動を展開しています。社協職員も各地区を担当し、地域のみなさんと協力しながら福祉の課題解決に向けてがんばっています。

◎生活支援体制整備事業としての「生活サポート連絡会議」は生活支援コーディネーターを中心に開催される会議です。お年寄りや障害にある方など困りごとを抱えた方々の情報をキャッチし、それをサポートをする地域や企業・関係団体などにつなげるのがコーディネーターの仕事です。民生委員や福祉関係者による定期的な安否確認や日常生活の支援を行うあんしん・安全ネットワーク事業や電気・ガス会社等と連携した巡回安全サービス事業、その他、子ども食堂事業なども代表的な活動になります。

◎日立市自立相談サポートセンターが市役所（本庁）2階に設けられています。ここでは、生活や就労、家庭環境など、様々な事情により、暮らしに困っている方を安心した生活が送れるように、専門の相談員4名が相談者に寄り添って自立した暮らしへのサポートをしていきます。コロナ禍になって、よりこのセンターの重要性が感じられているとのこと。又、少しでも早く就労につながるよう、ハローワークの職員も常駐しています。

日立市は「日立製作所」という企業を中心に発展してきた企業城下町です。最近は残念ながら企業の合併や撤退等が加速され、人口減少などにも悩まされているとのことでした。しかし、お二人のお話を伺いながら、昔からの福祉に手厚い風土はまだまだ残されているな（特に「人や慣習」等のソフト面に）という感じを強く持ちました。日立市社協のシンボルマークとキャッチフレーズの「やさしいね、ひたちのまち」からもそれは伝わってきます。そして何よりもお話を伺ったお二人から、強烈な“日立愛”が感じられました。



## 関係機関訪問 ⑬

### 障害者就業・生活支援センター「まゆみ」

住所 日立市多賀町 2-18-6

三協ビル1階C号

電話 0294-36-2878



◇障害者就業・生活支援センターまゆみの、運営主体は医療法人の圭愛会で、センター長は日立梅ヶ丘病院の事務長が兼務しています。平成23年4月にスタートした県内で1番新しいセンターです。その1か月前の3月には東日本大震災があり、周囲の目も厳しく前途多難な漕ぎ出しだったそうです。しかし、現在では565名の登録者があり、相談のみの方を入れると1000名くらいになるそうです。（うち高次脳機能障害の方は7名）。お話は主任の山本廣子さんに伺いました。

◎ 就業支援の内容としては、就職に向けた準備支援（職場見学や企業実習等）や求職活動支援（ハローワークや就職面接会への同行等）職場定着支援（事業所訪問やジョブコーチ支援等）などが有ります。相談に来る方は10代から50代の幅広い年齢層で、課題も山積しています。

しかし、山本さんたちは本人が辞めると言わない限りはずっと支援を続けたいと思っています。

また、家族や職場からの相談にも対応しています。



◎ 生活支援の内容としては、生活習慣の形成や健康管理、金銭管理のお手伝いをしたり、住居の確保のためにグループホームや公営（民営）住宅への入居に関する相談に応じたりしています。また、障害年金や生活保護の申請手続きの際の支援などにもあたります。

◎ 現在5名の職員が相談に対応しています。（うち生活支援2名、就業支援3名）年に4回の当事者会を「ラポール日立」で開き、当事者がピアサポーターとして体験談を話したり、グループワークで課題解決のための話し合いをしたりしています。

あの大震災の1か月後に立ち上げたというお話を山本さんからお聞きし、小さな体にもものすごいパワーを感じました。高次脳機能障害の7名の方々についても、相談や支援の内容をととてもよく把握されていて、一人ひとりへの思いが伝わってきました。「障害者の雇用について考えていただくために」という立派な冊子を戴きました。担当地区の就労支援事業所が多数紹介されています。山本さんはじめスタッフの方々のチームワークの賜物だと思いました。



## センス抜群!! まどかさん

つくば市 丹羽 まどかさん

今回登場して頂いたまどかさんには、週3回通っているという「福祉センターさくら」でお会いしました。伺ったのは、昼休みが終わり、今から「体そう」が始まるという時でした。当日は7名の出席者がいました。

まどかさんはリーダーとして様々な体そうやゲームの進行役を務めていました。



◇ まどかさんは、食に対する関心が深く、知識も豊富です。その日の「しりとりゲーム」の中でも、「マリトッツォ」とか「馬糞うに」など、ちょっと出て来そうにもない言葉が出て来てびっくりしました。ちなみに、「マリトッツォ」というのはパンにたっぷりの生クリームを挟んだイタリア発祥のスイーツだそうです。



◇ 4年ほど前から月に2回、ご自宅に市内の事業所から訪問介護の方がみえて一緒に「料理作り」をしています。献立はまどかさんが決めます。彼女は左半身が不自由なので、レシピを見ながら段取りを指示します。その指示に従って支援員の方が実際に調理をするという「共同作業」です。写真の日は「フライパンで作るチキングラタン」「ピリ辛漬け大根」「牛乳ゼリー」の3品を作りました。



まどかさんはとてもおしゃれな方で、いつも素敵なファッションをしています。シンプルな中にもセンスの良さが光っています。きりっとした眼鏡とポニーテールが、彼女のトレードマークでもあります。交通事故により身体と聴力に障害が残りましたが、ご両親に温かく大切に見守られたまどかさんは思いやりのある素敵な女性です。



## 支援センターより



### 新任職員の紹介

みやもと しげみ

#### 宮本 成美

今年度12月より高次脳機能障害支援センターの職員として勤務することとなりました宮本と申します。前職は、障害者の就労支援施設にて生活・職業指導に携わっておりました。

福祉の仕事は、父親の看取りをキッカケに介護に興味を持ち、社会福祉や精神保健福祉についても勉強して参りました。

金融機関での仕事や一般企業での人事・総務等の経験が長く異色の経歴ではございますが、高次脳機能障害の方々やご家族が、地域社会や職場の理解を得て「その人らしく」、「楽しく」生きていくためのお手伝いをさせて頂ければと考えております。

高次脳機能障害に対する理解不足も多々あるものと思われまます。これから「友の会」の皆様との交流を通じて勉強して参りますので、よろしくお願いいたします。

## 高次脳機能障害支援センターからのお知らせ

〇令和3年度 茨城県高次脳機能障害者支援基礎講座を開催しました。

- ・期間：令和4年1月12日（水）～2月9日（水）
- ・You Tube による動画配信

今回もコロナ禍ということで、オンライン形式での開催となりました。昨年の結果をふまえて、配信期間を1ヶ月としたり、2月4日には受講者の方のご質問にオンラインで答えるという初の試みを実施しました。

おかげさまでたくさんの業種、職種の方のお申込みがあり、昨年を大幅に上回る315名！の方が受講して下さいました。

アンケート結果からも家族会や当事者会の皆様にご協力いただいた講義は大変好評で「さらにご本人、ご家族の方のお話や支援者の方の経験談もお話いただく機会があれば、聞きたいと思いました」「実際の家族会でどのような会話がなされているのか、実際行われている場面がみたかった」などのコメントをいただいております。本当にありがとうございました。

今後も充実した研修会を企画・運営してまいります。よろしくお願い致します。

## お知らせ

### 今後の行事予定（4月～7月）

- ◇家族会交流室 ★4月8日(金)★5月13日(金)★6月10日(金)★7月8日(金)
- ◇県北地区 県北集会 ★4月24日(日)★6月19日(日)  
家族の集い★5月27日(金)★7月(未定)
- ◇神栖集会 ★4月27日(水)★5月25日(水)★6月23日(水)★7月27日(水)
- ◇県南集会 未定
- ◇当事者会 ★5月22日(日)★7月(未定)
- ◇役員会 ★4月19日(火) ★6月21日(火)
- ◇その他 令和4年度総会 5月29日(土) 於：土浦市新治地区公民館

### 役員会報告

- 1月18日(火) (1) 各集会、交流室、当事者会等についての報告  
(2) 会員メールについての確認  
(3) 「私のことファイル」に関して
- 3月15日(火) (1) 各集会、交流室、当事者会等についての報告  
(2) 令和4年度総会について  
(3) 福祉団体等支援事業費補助金について

### 交流室からの報告

- 12月10日 相談者1組（電話相談2組）会員8名  
支援センター⇒高橋副センター長、宮本 CN  
訪問看護ステーション「あやめつくば」金山さま
- 1月14日 相談者1組 会員5名  
支援センター⇒高橋副センター長

※1月以降の電話相談 6件



#### お悔み

当事者会員の小橋 誠さま 鈴木 幹雄さまが逝去されましたので、ここにご報告いたします。謹んでご冥福をお祈りいたします。

当会からの案内や各種お知らせ等はメールでの配信も可能となっております。メール配信をご希望の方は担当の黒瀬まで、以下の要領でパソコンのメールでお知らせください。 メールアドレス： s\_kurose@mse.biglobe.ne.jp

メール会員になりませんか？

件名： 電子メールを希望